

<過去2週間の動き>

(4月12日～4月25日)

USD/TRY: 14.5500～14.9950

TRY/JPY: 8.51～8.82 (参照値)

過去2週間のトルコ・リラ相場は、(11日の急騰に続く)続騰の先行から、対円ではその後も(20日アジア時間早朝まで)じり高推移を続け、高止まりと言える値動きを維持したものの、並行して対ドルではほぼ一方的な下押し。25日までに、対ドルでは、直近上昇分を全て吹き飛ばし、3月末来4週間ぶりの安値まで水準を切り下げた。対円でのリラの相対的な堅調は、円全面安の裏返しで、リラ側に特段の買い要因があつての値動きとは考えられなかった。円安の主因は、引き続き金利差拡大観測(米連銀、欧州中銀の利上げ観測と、対照的な日銀の低金利維持政策)と、燃料価格高騰などを背景とした日経常収支悪化観測と考えられた。20日に前後しては、円安進行が明確な局面にもかかわらず、日銀が連続債券指値買い入れオペ(10年国債利回りを0.25%に定着させる金利上昇抑制策)の実施を通告したことで、「日銀は円安を懸念していない」との解釈が広がり、円は対ドルで一時130円に手の届く水準(129.43)まで急落。前後してリラも対円で、1月4日以来の高値となる8.82まで上昇した。ただし、このリラ高は、あくまでも円安の値動きで、ドルを含むその他主要通貨に対するリラの値動きは、引き続き「不自然な」リラ急騰と、一方的なリラ軟調の組み合わせが続いた。12日に前後したリラ急騰の要因を挙げるなら、①保有外貨をリラ預金に転じた法人に税優遇する法案の導入 ②輸出企業の外貨建売り上げの40%のリラ転を強制する(1月に導入された同25%を40%に引き上げる)規制の導入、加えて③公式統計の枠外で独自の経済統計を公表したエコノミスト/研究機関に最長3年の懲役刑を果たす法案の導入の3点が挙げられた。

<過去2週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
4/12	7:00	鉱工業生産(前年比)	2月	+13.3%	+7.5%	+7.6%
	7:00	小売売上高(前年比)	2月	+6.2%		+8.1%r
4/14	11:00	1週間物レボ金利		14.00%	14.00%	14.00
4/15	8:00	財政収支(TRY)	3月	-69.0bn		+69.7bn
4/25	7:00	設備稼働率	4月	77.8%		77.3%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう2週間の見通し>

(4月26日～5月9日)

USD/TRY: 14.600～15.100

TRY/JPY: 8.50～8.80

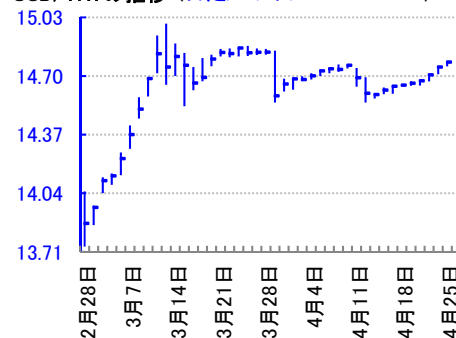
向こう2週間のトルコ・リラ相場は、引き続き、軟調を基調に、断続的に不自然なリラ急騰を折り挟む展開の継続を予想。上述、①～③は、いずれも12日の段階で、あくまでも観測であり、実際にトルコ法人や輸出企業が法改正などを理由に、(事前に)リラを買い上げた可能性はまず考えられない。為替差損補填型リラ預金導入の発表と合わせて、国営銀行に大量のリラ買い(実質的な為替介入)を出動させるといった手法は、昨年12月以降、頻繁に用いられてきたトルコ当局の常套手段。今回のリラ急騰も、上述①～③を材料視した値動きである以上に(その側面が全くないとは言わないものの)、リラ買い為替介入の結果と位置付ける方が妥当と思われた。トルコ当局の手法は、例えば今般も、②と抱き合わせで、トルコ輸出企業、観光業の設備投資を促進するために、総額1,500億リラの低利(9%)ローンを提供する(エルドアン大統領が15日に発表)といった具合に、飴と鞭を上手に使いつつ、見方を変えれば場当たりの、つぎはぎだらけの政策運営と批判することもできる。リラ安基調が継続すると見込むのも、足元の物価高騰と経常赤字拡大に対し、一連の弥縫策では解消の目途が立たないと考えるからに他ならない。

<向こう2週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
4/29	7:00	貿易収支(USD)	3月	-8.20bn	-7.88bn	
	8:00	外国人観光客(前年比)	3月		+186.5%	
5/5	7:00	GPI(前年比)	4月		+61.14%	

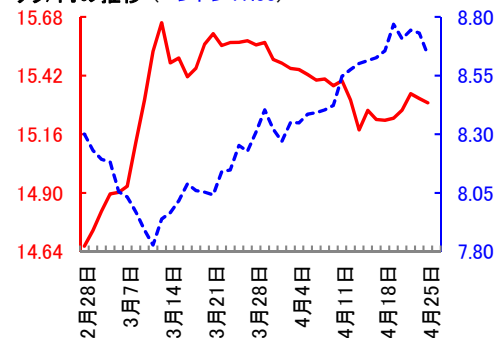
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



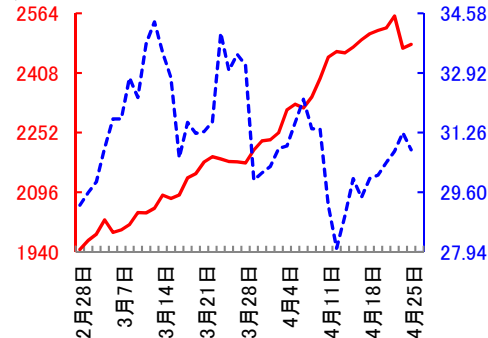
バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン17:00)



株式市場の推移 (ISE 100種指数)

長期金利の推移 (5年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q4	+9.1%
失業率	1月	11.4%
消費者物価(前年比)	3月	+61.14%
鉱工業生産(前年比)	2月	+13.3%
小売売上高(前年比)	2月	+6.2%
貿易収支(USD)	2月	-7.88bn
経常収支(USD)	2月	-5.15bn

<お知らせ>

英休日のため次回の「トルコ為替週報」は5月10日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんが、よろしくご諒承ください。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。